

# 平成29年秋期六浦西地区推進連絡会 議事録

## 1 日時

平成29年11月29日（水） 18:30～20:45

## 2 場所

大道コミュニティハウス

## 3 出席者

(地域側) 自治会等地域団体関係 39名  
学校関係 (大道中、大道小、六浦南小、朝比奈小、高舟台小 学校長・PTA 会長等) 10名  
(支援チーム、その他行政側)  
区役所 19名  
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ 7名

総合司会：横浜市立六浦南小学校 安達 洋子校長

## 4 開催概要

### (1) 開会の挨拶 (佐波会長)

- ・ 本日は、地区の代表として活動している方を中心に声を掛けた。各グループで情報交換した内容を地域に持ち帰り、反映していてもらいたい。
- ・ 第3期地域福祉保健計画は来年度中間期を迎える。「誰もが安心して 健やかに住み続けられる 支えあいのまちづくり」を基本理念とし、地域住民・事業者・行政が共に取組を推進している。
- ・ 六浦西地区でも、高齢化が進むと同時に福祉ニーズが変化・多様化している。認知症・MC I 対策にあたっては 19 の自治会町内会が一丸となり行動することが急務。
- ・ 平成 30 年度は最優先課題として、自治会町内会毎に認知症患者とその家族を支えるための取組を進めたく、地域ケアプラザの主導により学校にも参画いただきたい。平成 31・32 年度は、認知症・MC I になる前の一般住民を対象に、病の予知・予防策に対する取組を計画している。
- ・ 今年、異常気象や自然災害によって多くの犠牲者・被害が出たことは、我々に災害対策の重要性を痛感させた。自然災害の恐怖を払拭するためにも、慣例的に行われてきた防災訓練を見直し、有事の際の間違った行動を改め、基本的実施事項の見直しの議論や住民への周知が望まれる。
- ・ 平成 32 年度の第3期地域福祉保健計画のゴールをめざし、皆さまの一層のご支援とご協力をお願いしながら、六浦西地区の取組を進めていきたい。

(2) 地域課題の解決に向けた地域の取組と区の支援（國原区長）

(3) 出席者紹介

(4) 意見交換 テーマ「地域課題の解決に向けた地域の取組」

① 土砂災害、洪水、地震（認知症・MCI）の基本的考え方・概要説明（山本係長）

② グループ討議

■ 1 グループ <討議テーマ：認知症・MCI>

日頃の活動の中で取り組んでいること

- ・各自治会町内会では、DVD「認知症と向き合う」上映会、「認知症ケアの心構え」について講話（講師：金沢文庫病院看護師）、転倒予防、腰痛予防体操など、様々な面から理解促進・啓発を進めている。
- ・社明大会テーマに若年性認知症を取り上げたことで、自分には無関係だと考えていた人にも身近な問題だと気づいてもらえた様子。“自分事”として捉えてもらうためアプローチを続けていきたい。
- ・地域交流を促すため、シニアクラブ活性化に取り組むも「まだ自分は老人ではない」と考える方も多く会員数が伸び悩んでいる。会の名称も工夫が必要。

地域の中でこれから取組が必要だと思うこと

- ・発症を隠すなど、家族で問題を抱え込んでいるケースもある。地域で安心して暮らしてもらえるよう、本人・家族を支える環境づくりに努めたい。そのため、理解啓発・促進を地道に続けていく必要がある。
- ・認知症は病気だと理解することが重要。正しい知識を持ち理解を深めることで、気持ちに寄り添った声かけができるようになる。また、子どもに向けて積極的に説明の機会を設けていくことも必要。
- ・地域で孤立しないよう、人とつながっていくことが重要。例えば日々のゴミ出しも、あいさつを意識することで地域交流の機会となる。繋がりを強めることができる。はじめは返事が無くても、複数回目で変わるかもしれない。継続して取り組むことが重要。

■ 2 グループ <討議テーマ：地震>

地域で日頃から備えておきたいこと

- ・発災時、地域防災拠点に定員以上の人数が避難してきた場合、対応が困難になる可能性がある。もっと自宅避難が奨励されるべきで、そのため避難・防災用品を日頃から備蓄しておく必要がある。また、小学校ではアレルギー対応の非常食備蓄の動きがあるので、行政にも配慮をお願いしたい。
- ・ある町内会では、2年前から毎月11日に黄色いたすきの掲出訓練を実施している。当初は参加世帯が少なかったが、継続することで徐々に町全体へ広がっ

ていったそう。素晴らしい取組なのでこの場で共有したい。

#### 発災後に地域としてはどう対応するか

- ・発災後、地域防災拠点の運営委員は避難所開設に従事することになる一方、運営委員の所属町内会では対応が手薄になるおそれがある。また、毎年役員改選される町内会は継続的な取組が難しいなど、体制面の課題が挙げられる。
- ・一時避難場所に避難した際、地域防災拠点までの誘導役を誰が担うか、どのように声掛けするかなど、役割やタイミングを検討する必要がある。また、一時避難場所自体をもっと浸透させなければならない。
- ・自治会町内会・行政・学校・関係機関等が連携して対応することが重要。

### ■ 3 グループ <討議テーマ：土砂>

#### 地域で日頃から備えておきたいこと

- ・細長い地形のため、自治会町内会内でも避難の要否が異なることがある。情報の伝達方法を工夫していきたい。
- ・常日頃から、各家庭で身の回りの危険地域や避難場所・避難経路を知っておくなど防災意識を高めておくこと、ご近所付き合いを心がけて顔見知りの関係を築いておくことも重要。
- ・六浦駅舎の掲示板に広域避難場所が貼り出されているが、今日説明してもらった場所と違う場所が載っているようだ。また、土砂災害ハザードマップには避難所一覧が掲載されているが、大道中・六浦南小・朝比奈小は敷地土砂災害警戒区域。集まってもらっては心配。避難拠点とハザードマップの情報を整理してもらえるとありがたい。

#### 発災後に地域としてはどう対応するか

- ・実際に崖崩れが発生した場合は避難が最優先。また、道が崩落してしまったら避難も難しい。まずは自分の身の安全を確保するため、必要な行動をとりたい。

### ■ 4 グループ <討議テーマ：洪水>

#### 地域で日頃から備えておきたいこと

- ・海が近いため、急な河川氾濫はそう多くないと予想される。避難情報が発令された際は慌てず行動することを重点におきたい。
- ・インターネット上（※）で侍従川の水位情報が確認できることを周知したい。  
（※ 横浜市水防災情報のページ：侍従川 河川水位情報

[http://mizubousaiyokohama.jp/suii\\_point.cgi?point\\_code=546689](http://mizubousaiyokohama.jp/suii_point.cgi?point_code=546689) )

- ・落ち葉や泥で排水溝が塞がっていると大雨時に浸水・冠水してしまうことがある。日頃から清掃を行ったり、土木事務所に対処を求めるなどの対策が重要。
- ・古い情報や間違った情報が流布していることもあるので、誤解を生まないように正確な情報提供を徹底する必要がある。
- ・一人暮らし世帯は情報を入手しづらい状況にあることも多いので、回覧板・掲

示板を活用したり、町内会長や民生委員を通じて地域情報を伝達していきけるよう働きかけたい。また、周囲も支援が必要な人々に気付き、見守っていく必要がある。

#### ■ 5 グループ < 討議テーマ：地震 >

##### 地域で日頃から備えておきたいこと

- ・防災訓練は実施して終わりではなく、参加者とともにフィードバックや評価を確認し、次に向けてブラッシュアップしていくことが重要。
- ・自治会町内会として要援護者の情報伝達を支援していきたいが、自治会町内会未加入世帯や施設通所等により日中不在にしている世帯なども多く、世帯状況を把握しきれていない現状。まずは情報収集と整理に努めたい。
- ・今年度、大道小では5年生の総合的な学習の時間のテーマとして防災を取り上げた。地域住民へのインタビューをはじめ、様々なことがらを学び、改めて地域防災について考えを深めることができた。継続的に学習の機会を設け、子ども達の防災意識向上を促したい。

##### 発災後に地域としてはどう対応するか

- ・発災直後は情報入手が困難な場合もあるので、得られた情報を収集・分析し、住民同士で共有していく必要がある。
- ・地域防災拠点までたどり着けず一時避難場所へ避難した場合、物資は運ばれてくるのか。山坂を登らなければならないなど、避難所が遠くてたどりつけない可能性もあるが、その際にどのような支援があるのか心配。
- ・市では「横浜市防災情報Eメール」が運用されているが、通信障害が発生した場合は情報が遮断されてしまう。非常用放送設備があればいいが、設備が遠ければ聞き取ることもできないので、情報伝達手段が改善されるとよい。

#### ■ 6 グループ < 討議テーマ：認知症・MCI >

##### 日頃の活動の中で取り組んでいること

- ・①理解促進・啓発の取組、②予防に向けた取組に分けることができる。
- ・①として、各自治会町内会ではDVD「認知症と向き合う」上映会・講演会や勉強会・健康講座・認知症サポーター養成講座、地域ケアプラザでは認知症や成年後見制度関連の取組・出張講座を実施。
- ・②として、脳トレ（スリーA・手遊び等）、運動（スクエアステップ・ウォークラリー・体操・シニアソフトボール等）、サロン（茶話会・ふれあいサロン等）、サークル（麻雀・花だん整備・パソコン等）などを実施。

##### 地域の中でこれから取組が必要だと思うこと

- ・更なる理解拡大のため、認知症サポーター養成講座の実施等を通じて正しい知識の普及啓発に取り組みたい。既に講座や勉強会を開催している自治会町内会も多いので、これから更に拡充させていきたい。

- ・認知症予防のため MCI について学びたい。対策によって認知症への移行を防げるのであれば、どのような手段や方策があるのか知りたい。
- ・孤立化を防ぐため、気軽に集まれる場所を作るなど、地域交流に関する取組が必要。

#### (5) 質疑応答・意見交換

意見 地震と土砂災害・洪水で避難所が異なると分かり辛い。統一されていれば覚えやすいし、地域への浸透が進みやすいと思う。

意見 当地区は、敷地内に土砂災害警戒区域を含む地域防災拠点が3ヶ所ある。以前、地域防災拠点に訪れた区職員に、地震による土砂災害対策について尋ねたところ、自分は風水害担当で地震は担当外である、との回答だった。崖地が崩れた場合、避難が遅れてしまったり、物資配給を受けられなくなることも想定される。地域防災拠点が危険個所を抱えている状況では困るので、対処をお願いしたい。

山本係長 ご迷惑をおかけして申し訳ない。お答えした職員は避難所開設担当職員等だったと考えられるが、たとえ防災担当でなくとも誠意をお見せすべきであった。防災担当の説明不足も痛感しているので、改めて徹底していきたい。また、拠点立地については改善すべく努力中だが、人員手配、周囲との調整、代替地確保等の問題があり検討段階にある。

意見 本日配布された避難所一覧表と横浜市土砂災害ハザードマップの掲載内容が一部異なっているようなので、確認してもらいたい。

意見 昨年度、地区民児協「高齢者一人暮らし訪問」にて地区内の独居高齢者宅を訪ねた際、一軒一軒にホイッスルを配布した。非常時、声を上げられない状況でも SOS を発することができるので有効。各家庭に配布できればとても役立つのではないか。

#### (6) 総括（永山校長）

- ・今日のキーワードは“想像力”。地域課題の解決に向けて、各出席者が自分事として捉えながら真剣に話し合うことができた。コーディネーターの進行もあり、正しい情報を確認しながら共通認識を高められたのではないか。
- ・地域防災拠点には人・物資・情報が集まってくる。これからの拠点のあり方を考えるにあたって非常に有益な時間となった。避難所の定員超過が課題として上げられていたが、自宅避難の啓発が進めば新たな連携が生まれていくと思う。
- ・連携・協働の基盤は相互理解と信頼。安心して暮らせる健やかなまちづくりを目的に、自治会町内会や地域団体、関係団体等、あらゆる世代が交流しながら、できることをできる分だけ少しずつ取り組んでいくことが持続可能な活動につながっていく。

(7) 閉会の挨拶（新井担当部長）

- ・本日は、第3期地域福祉保健計画 地区別計画で新規に取り上げられた推進目標のうち「認知症・MC I」「災害対策」がテーマに取り上げられた。
- ・当地区では昨年から、地区別計画推進の糸口として認知症・MC I 関連の取組が積極的に進められてきた。今日の討議では、各自治会町内会の多様な取組を情報共有でき、今後の活動に向けてそれぞれヒントを得られたのではないか。
- ・災害対策では、身近な問題である地震や洪水・土砂災害に関して話し合うことで、認識が曖昧だった点を見直し、今後の対応を確認するきっかけになったと思う。行政に頂戴した要望は真摯に受け止めたい。また、もっと丁寧に説明する必要を感じた部分もあるので、努力していきたい。
- ・小さなことでも、自分たちができることを一つひとつ積み重ねていけば、少しずつでも何か変わっていく。今日の地区推進連絡会の内容を各自治会町内会に持ち帰って共有いただき、これからも取組を進めていただきたい。